

# 学術委員会活動報告

研究基盤協議会 理事(学術担当)

学術委員会 委員長

荒砂 茜



学術委員会では、以下の目標のもと活動を行っています

## 1) 計画している事業

- i 研究基盤にかかる学術研究の領域形成と知の集積
- ii 研究基盤にかかる学術交流の推進とネットワーク拡大

## 2) 目的

- i 研究基盤にかかる学術研究の推進、知見の集積を促す。
- ii 研究基盤にかかる知見の発信を促し、ネットワークを拡大する。

## 3) 必要性と期待される効果

- i 戦略的な研究環境整備や政策立案の基盤が強化される。
- ii 研究基盤に関する多様な知見や実践が共有され、分野・機関を超えた連携と協働の促進につながる。

### 委員構成（10名）

国立大学 教員等 7名

公立大学 教員 1名

私立大学 教員等 2名



- i) 研究基盤にかかる学術研究の領域形成と知の集積
  - ① SciREX 事業における調査実施 および成果発表
  - ② 学術委員会の活動内容をフィードバックする研究会の開催
  
- ii) 研究基盤にかかる学術交流の推進とネットワーク拡大
  - ① RA協議会年次大会におけるセッション企画
  - ② 研究・イノベーション学会での発表等



## SciREX事業共進化実現プログラム 第Ⅲフェーズ

研究支援の基盤構築（研究機関・研究設備・人材等）のための調査・分析

実施期間：2023年10月-2026年3月

代表者：隅蔵康一（政策研究大学院大学 教授）

プロジェクト概要：大学における研究推進、質の高い研究成果や新たな学術領域創出、スタートアップ創出、イノベーション促進のためには、日本のアカデミア全体として、研究支援の基盤構築、特に**研究設備の効率的な利用・アクセス性の向上を図ることが重要な課題**となっている。また、研究支援人材の採用・配置と能力向上も不可欠である。本PJは、日本における研究支援の基盤構築のため、政策立案に資するエビデンス構築を目指すものである。

協議会より江端、荒砂が研究実施者、境が研究協力者として参画

### ■ 実施テーマ

- ① 「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」の効果等に関する調査
- ② 研究機器に関する産学連携の実態調査

※ 政策研究大学院大学のリポジトリで報告書を公開予定



2025年10月21日、22日  
於 熊本城ホール

10月22日 10:45-12:15

「大学のコアファシリティと機器メーカーのwin-winな組織間連携  
について考える」

セッション実行委員:坂園 聡美先生(東北大学)

講演① 高山 勇人様(文部科学省)

講演② 野田 幸太郎様(株式会社島津製作所)

講演③ 荒砂 茜(東海大学)

# 研究基盤強化推進セミナーの開催



(一般社団法人) 研究基盤協議会、(一般社団法人) 研究・イノベーション学会 研究基盤イノベーション分科会 共催

## 研究基盤 強化推進セミナー

[第1回]

2025  
**7.28** MON  
13:30 受付開始  
事前登録必須

2025年3月、JST-CRDSは報告書「研究基盤・研究インフラのエコシステム形成に向けて」を発行しました。

本報告書では、研究機器に焦点を当て、日本におけるこれまでの関連施策を概観するとともに、いくつかの機器に関するケーススタディを通じて、各現場の実態を紐解いています。

これらの分析から、研究インフラのエコシステム循環を妨げる8つの課題がCRDSによって抽出され、明らかにされました。

さらに、これらの課題に対する解決のヒントとして、欧州における研究インフラ政策の構造や産学連携の取り組みが紹介されており、その重要なポイントが整理されています。

本セミナーでは、CRDSの皆様をお招きし、これらの調査・分析に基づく見解をご解説いただくとともに、参加者との意見交換を通じて、我が国における研究基盤・研究インフラのエコシステム形成に向けた展望を議論いたします。

### 開催方法

#### ハイブリッド (ZOOM)

対面会場: Shimadzu Tokyo Innovation Plaza 4F Main HALL  
(〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3丁目25-40)

### 事前登録方法

下記URLまたはQRコードよりお申込ください (7/21申込締切)。

ご登録後に、当日の詳細内容(ZOOM MTG情報含む)が記載されたメールが届きます。

▶ <https://ws.formzu.net/fgen/S140951836/>



### 対象

- 研究基盤協議会 団体会員機関にご所属の方、特別賛助会員機関にご所属の方
- 研究・イノベーション学会 研究基盤イノベーション分科会の会員の方

### Schedule

14:00-14:05	開会挨拶 一般社団法人 研究基盤協議会会長 江端新吾
14:05-15:00	講演 「研究基盤・研究インフラのエコシステム形成に向けて -日本・欧州における研究基盤の発見、調達、利用促進、共創-」 JST 研究開発戦略センター (CRDS) 横断・融合グループ 永野智己 (総括ユニットリーダー) 氏 川渕良子 (フェロー) 氏 杉村佳織 (フェロー) 氏
15:00-16:00	質疑応答、ディスカッション
フロース	
16:15~	Shimadzu Tokyo Innovation Plaza ラボツアー
17:00-18:00	情報交換会

お問合せ

研究基盤協議会 学術委員会  
研究・イノベーション学会 研究基盤イノベーション分科会 荒砂 茜  
✉ [a-arasuna@jcore2023.jp](mailto:a-arasuna@jcore2023.jp)

# 研究基盤強化推進セミナー 当日の様子



現地参加 31人、オンライン参加約50人、ラボツアー参加 24人、  
情報交換会31人



江端会長オープニング



ご講演:CRDS永野様



ご講演:CRDS杉村様



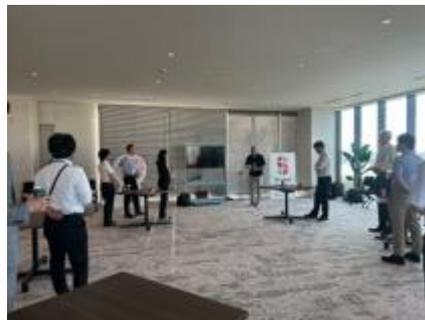
ご講演:CRDS川澤様



会場の様子



植草理事クロージング



林先生乾杯のご挨拶



情報交換会集合写真

# 研究基盤強化推進セミナー 参加アンケート

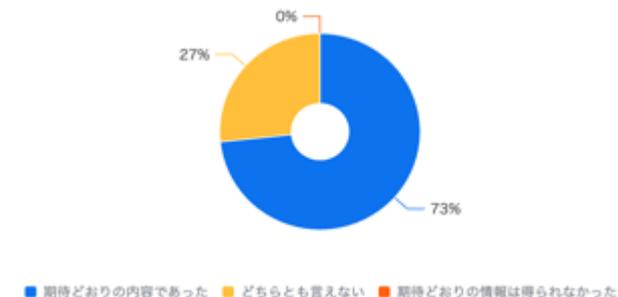


## セミナー参加アンケート(オンライン) 回答30名

### いただいたコメント

- 分析装置の研究開発には多額の資金がかかるというのは周知の事実かと思うのですが、ヨーロッパなどの海外の国々に比べて日本政府は支援が手厚くないと感じていました。**CRDSで本日のようなご発表をしていただくのは現場にとって勇気づけられ、将来への期待感でいっぱいになりました。**
- 最新の施策について、情報収集を目的として参加しました。**永野先生から、熱い言葉を多く聞くことができ、文書では読み取れなかった、多くのことを知ることができました。
- エコシステムをどのように構築していくか、技術職員に求められる役割は何かを伺いたかった。技術職員への期待は依然と比べてなくなっている、置き去りになっているという話を伺っていたが、自らを定義の型にはめず、**ボトムアップで今後どうありたいか認知される活動をしてほしいという言葉に勇気づけられた。**
- 現場の技術職員の心境を知りたかったところ、「研究者の要望と大学からの要望が異なる」ような意見があり、同じ境遇であることを知ることができただけでもよかった。技術職員は、研究者の研究支援をすることを拒む人がいないかと予想するが、研究者の一方的な要望が技術職員の要望とマッチしていないことがあると感じている。技術職員が協力していくことも必要だが、研究者の教育も必要なのではないか。
- 今日のようなセミナーは非常に勉強になります。現場の人間も国の施策を知ろうとすることが大事だと思いました。
- 想像以上の企画でした。今後もよろしくお願いいたします。
- 本日は貴重なセミナーを開催していただき、誠にありがとうございます。
- 東海大学の技術職員の方からの発言は参考になりました。国立大学はほぼ技術職員の職があります。私立大学では、東海大学、早稲田大学で技術職員の職がありますが、ほとんどの私立大学ではありません。研究基盤では技術職員としての立場でお話をされていますが、私立大学のバリエーションは広いので、一筋縄では行かない難しさを感じています。解決は難しいのでしょうか
- 技術職員が横で繋がれた好事例、高度専門職員として認知されるための活動の紹介があれば教えて頂きたい。**

Q:本日のセミナーはいかがでしたか？





## ■ 開催概要

日時：12月15日（月）13:00～17:00

場所：北海道大学 東京オフィス

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7-12  
サピアタワー10階

## ■ 参加者

文部科学省 2名

機器メーカー3社

学術委員会委員9名

研究基盤協議会 理事・監事 8名

Closed Event



- 研究基盤強化推進セミナー、勉強会の継続開催
  - 計測データの管理、利活用
  - 研究基盤IR 等
- RA協議会、研究・イノベーション学会等での活動

皆様のご参加をお待ちしております